

国家戦略特区ワーキンググループ ヒアリング（議事要旨）

（開催要領）

- 1 日時 平成27年11月19日（木）13:38～14:00
- 2 場所 永田町合同庁舎7階特別会議室
- 3 出席

<WG委員>

- 委員 阿曾沼 元博 医療法人社団滉志会瀬田クリニックグループ代表
委員 鈴木 亘 学習院大学経済学部経済学科教授
委員 原 英史 株式会社政策工房代表取締役社長

<提案者>

- 熊谷 俊人 千葉市長
川上 千里 千葉市総合政策局長
稲生 勝義 千葉市総合政策部長
中臺 英世 千葉市幕張新都心室長

<事務局>

- 佐々木 基 内閣府地方創生推進室長
川上 尚貴 内閣府地方創生推進室長代理
藤原 豊 内閣府地方創生推進室次長
塩見 英之 内閣府地方創生推進室参事官
田中 誠也 内閣府地方創生推進室参事官

（議事次第）

- 1 開会
- 2 議事 幕張新都心から挑戦する未来都市実証特区
- 3 閉会

○藤原次長 開始時間が大変遅れてしまって恐縮でございます。国家戦略特区のワーキンググループを開始させていただきます。

現在、こういったヒアリングを通じまして、戦略特区の追加指定を恐らく来月させていただく方向で検討しているわけですが、候補となっている自治体、今、40ぐらいあるわけですが、御提案いただいた順にお話を伺うというプロセスに入っているところでございます。

最初に、今日は熊谷千葉市長においでいただきまして、千葉市の提案につきまして、御

審議をいただくということでございます。大変時間が短くて恐縮でございますが、これから30分間の枠の中で、10分ないし15分ぐらいで市長からお話をいただいた上で、その後、意見交換とさせていただければと思います。

今日は八田ワーキンググループ座長が御欠席ということで、その代理で原委員にお願いをしております。

それでは、原委員、よろしくお願いいたします。

○原委員 お忙しい中を大変ありがとうございます。

では、早速よろしくお願いいたします。

○熊谷市長 改めまして、千葉市の熊谷でございます。今日はヒアリングの機会を頂戴いたしまして、ありがとうございます。

我々千葉市からは、「幕張新都心から挑戦する未来都市実証特区」という形で御提案を差し上げたいと思います。

次のページをめくっていただきまして、日本再興戦略につきましては省略をさせていただきまして、具体的な提案は、次のページに書かせていただいております。

提案1が「先端技術を活用したドローンによる宅配サービス・セキュリティ」の実証実験でございます。提案2が「先端技術を活用したモビリティの導入」ということで、これまでにない首都圏の都市部におけるドローン等の先端技術を集約した本市ならではの立地環境を生かした取り組みを進めていきたいと考えております。また、提案3「既存マンションを利用した民泊」、そして提案4「コンベンション機能を活用した魅力的な道路空間の創出」につきましては、私ども幕張新都心におきまして、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催地に選定されております。東京以外でオリパラともに開催するのは千葉市のみということで、我々はここを意識して、オリンピックレガシーの創出に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次のページをめくっていただきまして、幕張新都心の状況でございますけれども、先ほど申し上げたとおり、幕張メッセにおいて、オリパラの開催地になるということ。そしてまた、我々、幕張新都心が新都心系の中で特徴なのは、大変多くの住民がそこに暮らしているということで、現在、幕張ベイタウン地区では2万6,000人が暮らしております。

そして、さらに加えて、この右上の幕張新都心最後の住宅開発ということで、若葉住宅地区で計画人口1万人の住宅開発にこれから入るということで、私どもは、こうした首都圏の中でも最大級の住宅開発が行われるに当たって、できる限り未来的なまちづくりの内容を盛り込んだ形でやっていきたいと考えておりました。その中で、下のドローンによる宅配サービス・セキュリティを活用していこうという形を考えております。

5ページ目に「先端技術を活用したドローンによる宅配サービス・セキュリティ」ということで、私どもの千葉市の近くの市川・習志野あたりには、日本を代表する物流の拠点がございます。アマゾンや楽天などのそうした物流の拠点がございまして、ここから水平で海上を通り、そしてまた、若葉住宅、ベイタウンともに、花見川沿いにあるということ

で、全て水の上を通りながら、住宅地区まで水平移動の実証実験ができると考えております。また、ドローン開発の第一人者である千葉大の野波特別教授とも、これは連携をさせていただいているところでございます。

次をおめぐりいただきまして、ドローンについての提案の2が、この若葉住宅地区におきまして、46階建ての超高層マンションができるということで、日本において高層マンションにおける宅配の問題点は以前より指摘をされておりましたので、ドローンによる垂直方向での宅配についても実証実験をしていきたい。そしてまた、その中におきまして、私たちはこの46階建てのマンションをつくるディベロッパーのほうにも、垂直方向にドローンで宅配をする、そのものを設計段階に取り込んでいただくということが必要だろうと考えております。

課題に関しましては、これはもう御承知のことだと思いますが、改正航空法ですとか、もしくは電波法におきまして制約がございますので、私どもに規制緩和をお願いしたいというものでございます。

そして、ドローンに関しての3番目におきましては、こうした宅配をするに当たりまして、やはりドローンでの宅配にニーズがあると思われる菓の宅配におきまして、私どもは、遠隔での薬剤師による服薬指導を行った上で、地区内の薬局からドローンによる要指導医薬品、薬剤師の指導が必要な医薬品の配達をぜひ行いたいと考えております。

課題につきましては、医薬品医療機器等法第36条、また第37条といった形で対面以外での服薬指導が不可とされている等の課題があることから、私どもは、対面以外での遠隔服薬指導の方法を可能とする、また、要指導医薬品の店頭以外での販売を可能とする規制緩和を求めたいと考えております。こちらがドローンでの提案でございます。

次のページをおめぐりいただきまして、提案2が「先端技術を活用したモビリティの導入」でございます。私ども幕張新都心のすぐ近くに千葉工業大学未来ロボット技術研究センター（fuRo）がある関係で、このモビリティについても、幕張新都心という比較的道路、歩道空間も余裕がございますので、ここで実証実験をしたいと考えております。

まず1つはロボットタクシーの無人運行でございまして、これについての課題につきましては、御承知のとおり、ジュネーブ条約、また、道路交通法等で制約がございますが、私ども千葉市、特に幕張新都心におきましては、さまざまな国際会議、国際展示会が常時開催をされておきまして、また、2020年オリパラも開催される関係で、私どもはやはり、外国人の訪日の方々に、このロボットタクシーを活用いただく必要があるのではないかと考えておきまして、レベル4と言われる無人での完全自動運転の前に、レベル3.5と、一応ここで「？」と書かせていただいておりますが、いわゆる国際免許証を保有していない訪日外国人であっても、自国の免許証を保有していれば乗車・運行可能とすると、レベル3に少しプラスをしたような形ができるのではないかと考えております。

現状ではレベル3ということで、運転免許証を持っている人が運転席に座ればいいわけですが、外国人の方は、国際免許証をわざわざ取得してこなければいけませんので、私ど

もは、そこについて、それぞれの国において運転の免許証、技術を伴っているわけですので、運転補助者が乗る前提であれば可能なのではないかとということで、この部分についての規制緩和等を求めるものでございます。

また、右側にパーソナルモビリティのシェアリングサービスということで、パーソナルモビリティでありますけれども、我々幕張新都心の課題として、大変広大であるがゆえに、なかなか回遊性が高まらない等の課題がございまして、私どもは、このパーソナルモビリティを使って、シェアリングサービスを実現したいと考えております。

一方で現在、道路交通法でありますとか、そうした施行規則におきまして、歩行補助車から離れる場合は原動機を停止しなければならないということになっておりますので、例えば、おりた後に自動的にシェアリングポイントに戻るといようなことができないという課題がございまして、また、6キロを超える時速を出すことができないというところがございまして、私どもは、幕張新都心において、この無人自動走行の実証実験、そしてまた、最高速度10キロまで対応可能な、周囲の状況に応じて適正速度となる自律制御の安全移動支援技術の検証を、パラリンピックの開催地でもございまして、ぜひ私どもはこうした未来的なバリアフリー社会の実現を図りたいと考えております。

そして、提案内容3が「既存マンションを活用した民泊」でございまして、先ほど来、申し上げておりますが、私ども幕張新都心、千葉市はグローバルMICE強化都市にも国から選定をいただいております、我々もMICEに近年、非常に力を入れておるわけでございます。

その中で、今、幕張新都心は6つのホテル、部屋数が平成27年10月時点で約2,700室ございまして、これからさらに500室ふえるということで、ここ数年で1,000室ふえておりますが、ホテルの稼働率は86%、そしてまた、右肩上がりで宿泊者数がふえておまして、年間約130万人が宿泊をしていただいております。

今後、オリンピック・パラリンピックの開催等によりまして、宿泊施設の不足が見込まれておまして、試算したところ、約1,000室の部屋が不足をするということになっております。

私どもは、このオリパラ等の、もしくはMICEの経済波及効果を最大限に高めたいと考えておまして、そのためには民泊による対応をすべきではないかと考えております。

また、私どものベイタウンは、成田と羽田の間に位置する関係性から、さまざまな国際的な業務をする関係者の方々が多数お住まいでございまして、大変国際色豊かな住宅地域でございまして、実際に外国の生徒をホームステイで受け入れる等、さまざまな受け入れる素養、文化があると私どもは思っております、国家戦略特別区域法第13条による旅館業法の特例の適用を受けまして、民泊の対応を、このオリパラ開催地においてぜひともさせていただきたいと考えております。

最後に、提案4が「コンベンション機能を活用した魅力的な道路空間の創出」ということで、私ども、さまざまな国際会議や国際展示会などを開催しておりますけれども、幕張新都心は、特に新都心である関係性上、全て屋内にきれいに閉じるもので、国際会議が行

われている、国際色豊かな状況がまちなかになかなか出ないというのが一つの課題でございました。ですので、私どもは、国際会議、国際展示会が行われたときに、それをぜひまちなかで見える形にして、そして、幕張新都心、イオンモール等で3,000万人来る、そうした方々にも、この街においてそうしたMICEの風を感じていただきたい。そして、国際色豊かな街に我々は進んでいきたいと考えておりまして、そういった中で、課題としての道路交通法、道路法等の制約がございますので、国家戦略特別区域法第17条による国家戦略道路占用事業の認定を受けて、私どもは、道路空間においてさまざまなイベントでありますとか、また表示等を行うことで、幕張メッセという日本で最初につくられた本格的なコンベンションセンターを抱える街として、さらに進化をしていきたいと考えております。

これら4つの提案を実現することで、これまでにない首都圏の都市部におけるドローン等の先端技術を集約した、そしてまた、この幕張新都心、千葉市ならではの立地環境を生かした取り組みをさせていただくことで、日本の産業競争力の強化に大きく貢献し、世界に向けて日本の先端技術を活用した未来都市をアピールしたいと考えております。

そして、幕張新都心が2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催地であり、また、グローバルMICE強化都市にも選定されておりますので、こうしたバリアフリーの社会でありますとか、外国人に対するさまざまな新技術を活用したおもてなしでありますとか、また、市民がおもてなしをする、そのさまざまな機能を果たすことで、オリンピック・パラリンピックレガシーの創出、国際競争力の強化に貢献できる、そうした全ての人がストレスフリーな生活、ユニバーサル未来社会の実現に貢献できるものだと考えております。

どうぞ御理解をいただきまして、御支援いただくことをお願いして、私の説明にかえさせていただきます。御清聴いただきまして、ありがとうございました。

○原委員 どうも大変ありがとうございました。

規制改革に関する御提案を確認させていただきますと、まず後ろのほうから、提案内容3の民泊、それから提案内容4の道路占用事業に関して、これは既存の制度を活用するというところでございますね。

○熊谷市長 はい。させていただきたいと。

○原委員 提案1のドローンの配達に関しては規制改革が必要であり、これは新規の提案。それから、医薬品に関しては、今つくろうとしている制度。これは新規ですか。

○稲生部長 記載させていただきますように、今、そういう方向で向かっているところは承知をしてございます。そういう中で対応したいという部分です。

○原委員 わかりました。

それから、提案内容2のロボットタクシーについても、新規の御提案ということによりやすいですね。

○熊谷市長 はい。

○原委員 先に私から1点。ドローンでの垂直方向の配達というのは面白いと思いましたがけれども、実際には高層マンションでどういう形で届けることになりますでしょうか。

○熊谷市長 これは、アマゾン等の物流関係の責任者の方とお話をすると、高層の部分というのは実際には大変課題になっているということで、今回、事業者のほうからも、垂直方向で、この近くの、ここに書かせていただいています、ポートのところまで荷物を集約し、そこからドローンで各フロアレベルで配達をする。これは、各戸にするのか、それとも各フロアという形にするのかというのは、今後のディベロッパーや事業者との議論にはなりますが、いずれにしても、例えば一番下までおりなくても、また、事業者も上まで行かなくても、それぞれで自動的に配達をするという形になります。

○原委員 この書かれている四十何階とかになると、大体、配達の場合には、今、下の郵便受けなり宅配ボックスに届けるということですが、住民の方からすると、上のフロアまでちゃんと届けてもらったほうが良いというニーズあってという。

○熊谷市長 2つ課題がありまして、宅配ボックスであったとしても、そこまでおりていかなければいけないというところについて、かなり住民、特に高層階の方々に関してはかなりのストレスがあるということと、それから、宅配側からすると、宅配ボックスが埋まるというのが大変多い状態もありますし、そういう中で、上まで行って各戸に配達をする。中にいらっしまったとしても、そのエレベーターの移動だけでかなりの時間を食うというような課題が、これは日本特有の課題として、物流業者がかなり課題だと認識をしているということでございます。

○原委員 もう一点だけ。イメージがまだ理解し切れていませんのが、上のほうのフロアだとして、ベランダみたいところに届けるのですか。あるいは何か別の新しい受付窓口のようなものをつくることになるのでしょうか。

○熊谷市長 ここは、まさにアマゾンや楽天とディベの中での議論になろうかと思いますが、設計段階として、こうしたものを織り込んでおかなければ、仮にベランダにしても、ひっかけるような形がなければいけませんし、また、ポートであれば、なおさら作り込んでおかなければいけない。また、仮に落下した場合のバッファゾーンを設定する等を建築段階から入れなければいけないということで、それを最初に織り込んだ形で、日本で最初の高層マンションというものができるのではないかと考えております。

○原委員 わかりました。

○鈴木委員 何点か御質問させていただきたいのですけれども、まず、垂直方向のドローンというお話なのですけれども、遠隔の服薬指導というのは遠隔医療とセットなので、遠隔医療のほうは、近くにお医者さんが実際にいるような場所ではなくて、一応、過疎地とかそういうのを想定しています。だから、実証実験としてはおもしろいと思うのですけれども、実際にこの地区でどれぐらいのニーズがあるのか。つまり、高層階から下において来られないような老人がたくさんいるとか、多分、実際のニーズとしては高齢者ですね。だから、届けてほしいとか、あるいは遠隔医療を使いたいと。それは、どれぐらいの感じでこの辺には高齢者がいらっしゃるのでしょうか。

○熊谷市長 まず、ベイトウンのほうは大分高齢化が進んでくるところがあろうか

と思います。

一方で、この若葉住宅地区は、恐らく若い方もいらっしゃると思います。アマゾンや楽天さんといった事業者の方々とお話をしていると、そうした即時宅配というものに対するニーズとして、薬というのは出てくるだろうと。また、軽量であるということも含めて、事業者側としてはぜひとも参入をしたい分野なのだと。実際に、お子さんを抱えている保護者等が、子供がいる以上出られない、しかし、というようなところのニーズがあると、意見交換の中でもこういう話が出てきているという認識でございます。

○鈴木委員 わかりました。ありがとうございます。

それから、もう一つお伺いしたいのが、民泊のほうなのですけれども、この辺のマンションは結構人気があって、割と埋まっているという感じがするのですけれども、民泊できるようなスペースはあるのでしょうか。

○熊谷市長 やはりもう開発をしてかなり年数もたってきておりますので、賃貸に回るようなものもございますし、外国に長期出張で行かれる方々などもいらっしゃいますので、そうした部分の活用としても、結構所得のある方ですから、賃貸に回っていなくても、実は長期いらっしゃるという物件もありますので、そういった意味で適しているのではないかと我々は認識をしております。

○鈴木委員 よくわかりました。

最後ですけれども、このモビリティのシェアリングサービスは、あの辺は割とコンパクトにものがたくさんあるのでいいかなと思うのですが、タクシーのほうは余りイメージが浮かばないのです。タクシーを使うというと、結構航続距離が長いので、回遊するというか、いろいろなところに行くというイメージがするのですけれども、あの辺だと、メッセと幕張新都心のあたりで、タクシーを使って行くほどの広い感じがしないのですが、どんなイメージですか。

○熊谷市長 我々、幕張新都心の特徴とすると、どうしても計画された新都心であるがゆえに、にぎわいが表に出ておりませんで、実は、歩く距離として地図上はそんなに長くないけれども、歩くのにかなり苦痛だということで、私どもは、イオンモール、それからアウトレットモール、そしてまたQVCマリンフィールド、そして今度は日本サッカー協会のナショナルフットボールセンターも海側にできる。いろいろな意味で集客力のあるものがあるのですが、回遊性がなかなかうまくいかないというのが私たちの大きな課題でして、そういった意味で、回遊性を高めていくためには何らかのモビリティが必要だというのが我々の認識であります。

シェアリングのサイクルなど、いろいろなものを私どもはこれまでも実験してきているところの中で、ぜひともこのロボットタクシーについては、イオンのほうもこれはやりたいという話もいただいておりますので、我々も、幕張新都心の環境としては必要だろうと認識をしております。

○鈴木委員 わかりました。ありがとうございます。

○原委員 あと、事務局から何かありますか。

○藤原次長 特にございません。

○原委員 では、よろしいでしょうか。どうも大変ありがとうございました。

○熊谷市長 ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。